

子どもたちが文化・芸術にふれる機会を増やしたい



竹内 功 Isao Takeuchi



竹内市長も講師として参加。市役所の仕事を説明したり、子どもたちと名刺交換を行ったりした。

文化の発展のために一層の体験の機会を

竹内 この事業は本市としても発展させていきたいと思っております。先生方は今後の事業展開についてどのようにお考えですか。
稲垣 県内4市の文化団体協議会

の集まりがありますが、他の3市にこの事業の話をする時、いつも興味津々で聴いていただけです。他の市も実施したいのですが、なかなかできないというのが現状のようです。
子どもにとっても講師にとっても非常に教育的効果のある事業なので、もっともつと発展させていくことが鳥取市の文化芸術を伸ばしていくことになるのではないのでしょうか。また、人間教育という面でも将来的に大きな成果を生むものだとこのことを信じています。
具体的にはどのようにやっていくかは、我々もコーディネーターするのには難しく感じるところもありますので、我々だけではできないことも出てくるのではないかと思います。行政にもご協力いただければと思います。
柴山 鳥取市教育委員会でも、スポーツ関係の教室は行っています。しかし、文化・芸術のこのような活動は本当に少ないため、出前講座はとて大事な活動だと思います。情報量もスポーツはいくらでも出てくるのですが、文化の関係は少ししか取り扱っても

に関する取り組みがもつと前面に出てきていいのではないのでしょうか。スポーツも文化も、両輪のごとくお互いがうまくいく形が必要だと思っていますので、ぜひ頑張ってください。
竹内 やはり、地元のみなさんが教壇に立ち、授業をしていただくことは、いわば文化の地産地消ということなので、効果も大きいと思いますし、子どもたちも芸術・文化に一層親しみが持てると思います。また、教育効果が認められるということですから、学校にこの制度をよく知ってもらって積極的に活用していただけるよう、教育長にも私からお話をして、お願いしたいと思います。
平成26年度は、障がいをお持ちの方の全国芸術文化祭や唱歌ふるさと誕生100周年記念事業、尾崎放哉の生誕130周年記念事業など、文化・芸術に光が当たる年になります。
本市の特色ある文化・芸術に携わるみなさんが、学校で子どもたちとふれあい、体験するこの取り組みの新たなスタートの年にしていきたいと思っています。

※対談内容は要約して掲載しています



業をコーディネートしていくシステムを作っています。鳥取市は独自でシステムを整えています。しかも文化団体協議会がコーディネーターの役割を果たしておられます。本当は、教育委員会も何らかの形で関わって、お互いに協力し合えたらいいのではないかと思います。
竹内 教育委員会としても関わった方がよいという理由には、教育効果が十分に認められるというところがあるわけですね。
柴山 そうですね。私も出前講座の講師をしています。が、「いかにして子どもの心を開かせるか」という一点に絞って取り組んでいます。非常に固定化した姿でものを見てみるとしたら、それをどうやって崩し、どれだけ広がった心を持たせるか、ということがとても大事なことです。特に芸

術だけに関わらず、そういう心を持たせたいと思います。
稲垣 やはり、学校教育が進むほどこじんまりしてしまふ部分を体験で破っていくところに、子どもたちのよい表情が生まれるのではないのでしょうか。
竹内 教育的な効果も含め、子どもたちに大きな驚きと反応をいただいていることは、本当に意味があることだと思います。
柴山 また、子どもたちはものすごく真剣です。私が「もうやめましょう」と言ってしまうくらい何回でも挑戦します。こちら、子どもたちの思いはちゃんと受け止めてやりたいと思いい、自分の道具だけでは間に合わないの、出前授業用の筆を用意したりしています。
稲垣 私も書道をやっているのですが、子どもにとつて書道は『書写』のイメージ。良い字、きれいな字を書かないといけないと思っています。しかし、私の授業では自分の思いを含めた書を書くということを狙っています。そのため、

如何にして子どもたちの常識を崩し、心を開くか



柴山 抱海 Houkai Shibayama

手島右卿の思想を継承して鳥取に独立書人団の書を移植。県書道連合会の会長として書の普及に努め、鳥取県文化功労賞知事表彰を受賞した。



柴山先生による書道の授業。子どもたちは、全身で書に立ち向かう先生の姿をかたずをのんで見守った。